

## 1 学校教育目標

○自ら学ぶ生徒      ○豊かな心をもつ生徒      ○たくましく生きる生徒

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 明るく、元気な挨拶ができる生徒に溢れた学校</li> <li>2 ボランティア精神の溢れる学校</li> <li>3 学校、地域、保護者が一体となり、生徒を育む学校</li> </ol>
○児童・生徒像	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 挨拶がしっかりできる生徒</li> <li>2 社会のルールを守り、社会に奉仕できる生徒</li> <li>3 自ら判断し、行動できる生徒</li> </ol>
○教師像	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒への深い愛情と確かな生徒理解をもつ教師</li> <li>2 魅力ある授業づくりに努力する教師</li> <li>3 組織で教育を実践し、生徒・保護者・地域から信頼される教師</li> </ol>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### ◎学校の現状

・コロナ禍以前の教育活動ができる状況になってきたが、過去の活動にとらわれることなく生徒会の意見も取り入れながら、各種行事や取組を実施している。生徒たちは落ち着いた学校生活を送っており、様々な活動に積極的に取り組んでいる。成果欄にあるように、生徒アンケートの結果もその状況を如実に表している。自由意見欄も「過ごしやすい学校」という記述が多く見られる。また、3年生の模擬面接で自校の様子・特色を質問すると、ほとんどの生徒が「『みそあじ言』を意識して生活していて、あいさつはしっかりできている。」「いじめがなく、明るく元気で仲の良い学校。」と返答している。家庭学習には課題があるが、授業には前向きに取り組んでおり、学力面も徐々に向上している。大きな課題である不登校対策については、登校準備室の設置、SCの全員面接やSWPBS(学校規模ポジティブ行動支援)等で未然防止に努めているが、なかなか成果として表れていないのが現状である。

### <前年度の成果と課題>

#### ◎成果

◇全般的に生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができ、88%の生徒が「学校または学級は、居心地の良い場所になっている。」という設問に肯定的に答えている。また、諸活動に生徒と教職員が信頼関係を築きながら取り組み、ほとんどの生徒が行事を含めた諸活動に前向きに取り組んでおり、「成長を実感することができた。」「達成感を得られた」と90%前後の生徒が答えている。大きな成果だと言える。

◇伝統的な合い言葉「みそあじ言」の浸透や「PBSの全校展開」といった取組により、「人権意識の涵養と規範意識の醸成」という重点項目でも、成果が見られた。「思いやりをもって、友人と接するように心掛けている。」「SNS等を含め、学校のルールを守って生活している。」の肯定的回答は、ともに95%という好結果だった

#### ◎課題と解決の方向性

◆確かな学力の定着を目指した取組を行い、成果も出てきているが、各種学力調査の結果を見るとまだまだ改善が必要である。

- ・ 87%の生徒が「授業が充実し、学ぶ楽しさを感じた。」と肯定的に答えている。実社会との関連を図ることで「学ぶ意義」を理解させるとともに、ICT機器を活用しながら「主体的・対話的で深い学び」を目指して授業改善（個別最適な学習と協働的な学習の一体化）を進めていく。
- ・ 各種コンテストや補充教室(YST)については「自身の学力向上に有効だった。」という回答が77%と昨年より若干上昇した。AIドリルの活用を含め、実施方法について更に検討し、個に応じた支援を推進していく。
- ・ 家庭学習については、量的にも質的にも課題が残った。授業・補充教室と合わせて個に応じた学習機会の充実を図り、主体的に学習する態度を養う。
- ◆不登校生徒の割合は昨年より若干減ったが、30名を超えており引き続き重要な課題となっている。
- ・ SC, SSWや関係諸機関との連携、家庭との協働の他、タブレットの活用も取り入れながら対応していく。
- ・ 未然防止に向け、レジリエンスの育成、心理的安全性の高い学級・学年・学校づくりを推進する。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生徒の人権意識の涵養と規範意識の醸成を図る指導の推進	○	○	○	○	○
3	キャリア教育の推進			○	○	○
4	コミュニティ・スクールとしての、地域・保護者との協働による生徒の育成	○	○	○	○	○

#### 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着と学習意欲向上		年度末到達度確認テスト正答率 70% 令和6年度 区調査通過率 70%		<b>自己評価の際に記入</b>					
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
改善	読書活動 推進 (朝読書と 読書週間の 設定)	全校生徒 (国語)	(前期) 朝学習 の期間 以外	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 ・読解力を養う。 ・ビブリオバトルの実施 【使用教材】本 ※ 後期はAI活用朝学習を試行	読書カード  生徒アンケート  教員アンケート	・年間3冊以上の本を読む生徒が80%以上 ・ビブリオバトルへの肯定的評価80%以上	<b>自己評価の際に記入</b>		

改善	学習コンテストや定期考査と連動した「朝学習」	全校生徒 国・数・英 (社・理)	・(通年)コンテスト前と定期考査前 ・金曜日	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 ・基礎学力の定着 【使用教材】自作プリント AIドリル	・学習状況の把握・評価 ・学習コンテスト 定期考査	・全員が10分以上学習する ・金曜日に生徒全員が Qubena に取り組む
継続	国数英強化月間の設定 (学習コンテスト)	全校生徒 国・数・英	各教科 年2回	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 学習内容の復習・確認。 基礎学力の定着を図る。 【使用教材】各教科の自作プリント	学習コンテストの実施	各種学習コンテストで、 80%の生徒が合格点をクリア
継続	放課後補習教室 (YST)	区調査や各種コンテスト等の合格ライン未到達の生徒	月、火、木、金  放課後 25分程度	【指導体制】教科担任+学年 【取組内容、ねらい・目的】 個別または少人数指導で、 つまずきをなくす支援。 【使用教材】 AIドリル、各教科プリント	狙いに応じたまとめテストの実施	95%以上の生徒が最終的に合格ラインをクリア
改善	個に応じた学習機会の充実 (家庭学習の習慣化)	全校生徒	通年  (3年生後期を除く)	【指導体制】教員、保護者 【取組内容、ねらい・目的】 家庭学習ノート及びAIドリル等、一律ではなく <u>個の学習状況に応じた選択可能な課題を提示</u> <u>目的をもち工夫して学習する意欲・態度を醸成</u>	・学年教員が随時点検 ・提出状況調査を定期的 に実施	・70%以上の生徒が家庭での学習時間1時間以上 ・ <u>生徒アンケート</u>
継続	サマースクール	・1年生数学勉強合宿対象者 ・英・数で基礎未定着の生徒 ・希望者	夏季休業中の6日間+α	【指導体制】全教員 【取組内容、ねらい・目的】 前年度および当該年度の前半期の学習内容でつまずきを解消する。 【使用教材】自作プリント サマワーク、勉強合宿テキスト	事前・事後にテスト実施	事後テストで全員の正答率が、10%以上上昇

自己評価の際に記入

継続	自習教室の設置	希望者英数(国)	不可の日以外	【指導体制】SSS等の活用 【取組内容、ねらい・目的】自学自習の場の設定。 【使用教材】AIドリル他	参加者アンケート	参加生徒の満足度が80%以上	自己評価の際に記入
新規	授業改善指導力向上	全教科全教員	通年	① 足立スタンダード(虎の巻)を基にした授業の実践 ② ICT機器(タブレット)の効果的な活用 ③ 学校図書館の授業での利活用 ④ 実社会との関連を意識	・授業アンケート ・生徒アンケート ・授業観察 ・教員アンケート	① ④「授業が充実し、学ぶ楽しさを感じた」90% ② 有効活用した教員90% ③ 延べ30時間以上の活用	
新規	各種検定の受検の奨励と学習会の実施	希望者国・数・英	検定前	校内において漢検、数検、英検をそれぞれ年2～3回実施。検定対策の学習会を開く。	検定結果	受検者数、合格者数が増加 CEFR A1 レベル相当60%(3年)	

<b>重点的な取組事項－2</b>		生徒の人権意識の涵養と規範意識の醸成を図る指導の推進						
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
自他を大切にする心の育成 好ましい人間関係づくり		いじめ0 不登校生徒の減少(5%未満) 外部と繋がりをもたない生徒 0				自己評価の際に記入		
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>								
<b>項目</b>		<b>達成基準</b>		<b>具体的な方策</b>		<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
いじめ防止対策の推進		生徒アンケートで「自分自身や自分の周りで、いじめはなかった」の肯定的回答90%以上		・生徒会を中心とした、生徒の自主的ないじめ防止活動の支援 ・「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」を軸とした人権教育の推進		自己評価の際に記入		

基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成	生徒アンケートで「基本的生活習慣が身に付いた」「SNS等を含め、学校生活のルールを守って生活している」の肯定的回答が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解を基盤とした生徒指導の実践</li> <li>・「みそあじ言」の徹底</li> <li>・セーフティ教室を軸とした情報モラル教育等の充実</li> </ul>	<b>自己評価の際に記入</b>
特別支援教育の推進と心理的安全性の高い学級・学年づくり	生徒アンケートで「思いやりをもって友人と接した」と「自分の考えを安心して発言できた」の肯定的回答90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SWPBS(学校規模ポジティブ行動支援)の実践</li> <li>・WebQUの結果分析とグループエンカウンター等の実施</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点をもった教育活動の推進</li> </ul>	
不登校生徒の減少に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒の減少(5%未満)</li> <li>・引き籠もりの生徒0</li> </ul>	前記3項目の他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年でSC全員面接実施</li> <li>・教育相談週間の設定</li> <li>・特別支援教育の充実</li> <li>・各家庭やSC、SSW、関係諸機関との連携</li> </ul>	

<b>重点的な取組事項－3</b>	キャリア教育の推進
-------------------	-----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分に自信をもち、将来の夢を語る生徒の育成	生徒アンケートにおいて該当項目の肯定的回答 80%	<b>自己評価の際に記入</b>		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来の夢や希望をもてた」の肯定的回答</li> <li>1年生・・・70%</li> <li>2年生・・・80%</li> <li>3年生・・・90%</li> <li>・キャリア教育アンケートの全項目で区平均以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業調べや社会人の話を聞く会、職場体験等、外部人材や関係諸団体を活用したキャリア教育の推進</li> <li>・全教科において、<u>実社会との関連を図り、基礎的・汎用的能力を育成する授業実践</u></li> </ul>	<b>自己評価の際に記入</b>		

<p>学校生活における自己の役割と社会との関係性の充実</p>	<p>「学校の諸活動を通して、自分の成長を実感できた」の肯定的回答 90%</p>	<p>・学校・学年行事や委員会活動、部活動等の実施 ・全教科授業を中心とした学ぶことの意義と将来への有用性を実感する教育活動</p>	
---------------------------------	---	--	--

**重点的な取組事項－４** コミュニティ・スクールとして、外部人材の活用や地域・保護者との協働による生徒の育成

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感・自己有用感の育成	「自分の活動・頑張っていることを、周囲の仲間や大人に認められていると感じる」の肯定的回答85%	自己評価の際に記入		

**B 目標実現に向けた取組み**

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
関係諸団体との連携や外部人材の活用による講話や体験活動等の充実	特別活動等で外部人材を活用した取組を <u>6回</u> 以上実施	・各種体験的活動や講習会・講演会等への学校運営協議会をはじめとした地域人材・地域資源の活用	自己評価の際に記入		
関係諸団体と連携したボランティア活動の機会充実によるボランティアマインドの育成	・ボランティア活動に参加経験のある生徒 <u>50%</u> ・関心をもった生徒90%	・地元町会・自治会等の各種活動へ中学生の参加を依頼 ・福祉教育・福祉体験の充実 ・ボランティア活動への呼びかけの工夫			
SDGsに係る取組の推進	・「SDGsの目標を理解し、個人としても実践可能な活動をした」の肯定的回答90%以上	・総合的な学習の時間を軸に、地域の人材や資源を活用した指導計画の作成と実施			

**6 まとめ**

<p>(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性 (2) 保護者や地域へのメッセージ (3) その他（学校教育活動全般について）</p>	自己評価の際に記入
---	-----------